

1. 評価結果概要表

作成日平成21年2月18日

【評価実施概要】

事業所番号	3770103012
法人名	有限会社博永興産
事業所名	グループホームオアシス香西
所在地	香川県高松市檀紙町字八幡1452番地1 (電話)087-815-6511

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会		
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号		
訪問調査日	平成21年1月26日	評価決定日	平成21年2月18日

【情報提供票より】(20年12月22日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	昭和(平成)16年5月12日
ユニット数	2ユニット 利用定員数計 18人
職員数	15人 常勤10人、非常勤5人、常勤換算12.5人

(2)建物概要

建物構造	鉄骨造り 2階建ての2階部分
------	-------------------

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000円	その他の経費(月額)	24,000円+実費	
敷金	有()円	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有()円	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	200円	昼食	400円
	夕食	400円	おやつ	100円
	または1日当たり 円			

(4)利用者の概要(12月22日現在)

利用者人数	17名	男性	1名	女性	16名
要介護1	0名	要介護2	1名		
要介護3	9名	要介護4	7名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 85歳	最低	79歳	最高	92歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	香西内科医院 池尻歯科医院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当グループホームは、幹線道路のバス停、協力医療機関から少し奥まったところの静かで広々とした敷地にある。鉄骨2階建ての2階部分に別々の玄関があり、第1(洋風)ユニット・第2(和風)ユニットに分かれ内部は自由に行き来できる。屋内は木製で落ち着きがあり、明るく広いホールは清潔感がある。利用者は穏やかな表情でその人らしくゆったりと過ごしている。職員は「人間らしく人生の最後まで生き活きと、やすらぎ安心癒し」の理念を基に、チームケア目標・月間自己目標を日々確認しながら介護実践に取り組んでいる熱意がうかがえた。
地域に溶け込み地域住民との交流を、さらに深められるよう前向きに取り組んでいる。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善項目、特に利用者との関わり、外出が少ないなどについて施設長、職員間で話し合い、4委員会(レクリエーション、身体拘束、感染、事故防止)を発足し改善できるところから取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は、ユニット単位に全職員が申し送り、カンファレンスで話し合い取り組んでいる。作成は管理者が行っている。職員はチーム目標、月間自己目標を掲げ毎月成果を確認している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2か月ごとの運営推進会議も軌道にのり、参加者から徐々に意見、要望がでるなど協力関係が深まってきている。貴重な意見を運営に反映させる取り組みをしている。運営推進会議の議事録を作成し職員に周知し共有している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	各ユニットの玄関にご意見箱を設置している。運営推進会議や家族面会時に意見・要望をお聴きしている。毎月、家族に担当者が利用者の生活状況、行事の写真と預かり金収支を手紙で送付している。また、年1回ホーム独自の家族アンケートを行い意見・要望を運営に反映している。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の老人会、コミュニティセンターにホーム便りを配布している。地域の幼稚園との交流や、町内の文化祭・夏祭りに利用者も積極的に参加している。また、散歩時にイチジクをいただいたり、地域の方が野菜を持って訪問されたり、ホームのイベントに参加するなど交流が深まり、認知症の対応や相談を受けられている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	全職員でつくりあげた理念、「人間らしく人生の最後まで生き活きと、やすらぎ安心癒し」を開所時の利用者が書いてユニット内に掲示している。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝、申し送り時に全職員が復唱し、日々のサービス実践に取り組んでいる。また、月1回は理念を職員で話し合い確認している。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の老人会、コミュニティセンターにホーム便りを配布し交流の糸口としている。地域の幼稚園との交流や、町内の文化祭・夏祭りに利用者も積極的に参加している。また、散歩時にイチジクをいただいたり、地域の方がホームのイベントに参加するなど交流が深まっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価はユニット単位に全職員で取り組んでいる。外部評価の改善に向けて話し合い、4委員会(レクリエーション、身体拘束、感染、事故防止)を発足し具体的なサービスの向上に取り組んでいる。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回運営推進会議を開催し、事業所の活動状況などを報告している。参加者からの意見を運営に反映している。会議録を作成し職員に周知し共有している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当課とは情報交換や相談などで交流している。また、ホームのイベント、ボランティア活動などに参加してもらっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、担当者が家族に利用者の生活状況、預かり金の収支を手紙で送付している。また、面会時や状況に応じて電話連絡を行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	各ユニットの玄関にご意見箱を設置している。家族面会時には必ず声をかけて意見、要望を聞いている。また、年1回ホーム独自の家族アンケートを行い、意見は職員間で共有し運営に反映している。	○	年1回記述式の家族アンケートを実施し運営に反映している。多角的に家族が要望していることをつかむ目的で、アンケートの設問項目を作成し、継続して運営に反映させることを期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者が職員と馴染みの関係が保てるよう担当制をとり、異動も最小限に抑えるよう努めている。退職者の後任は非常勤者で対応している。新規採用者には、理念を基に施設長・管理者が職場内教育を行っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は段階に応じて計画し職員は積極的に参加している。研修後、全体会議で報告し職員は相互の知識、技術に役だてている。成果に応じて委員会の長および副の役割を任命している。また、職員は毎月チームケア目標から自己目標を掲げ、個々で成果確認している。施設長とは定期的な面談で自由に意見が言え、信頼と意欲につながっている。	○	職員は、自己目標の成果確認を個々でしていることはよいことである。定期面談時に、自己目標への施設長・管理者のアドバイス(例えば、ほめる点、補足する点など)を加え職員の志気を高め、さらに向上につながることを期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員の相互評価活動を通し、市内の同業者とホーム便り配布やホーム間のイベントで交流しながら、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者・家族が安心して、納得してサービスが受けられるよう事前に利用者・家族に訪問してもらい、少しでも馴染んだ状態で入所できるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の会話や言動から思いや意向を学びとり家族の一員として支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の言葉や表情から思いや希望を把握している。また、利用者の状態により家族から情報を得るように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ユニット単位の職員が申し送り、カンファレンスで意見交換を行い、利用者の意向やアイデアを反映しながら個別の計画を作成している。家族面会時に利用者の生活歴や性格を聞いて計画に反映している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3か月ごとに定期的に見直しをしている。利用者の状態変化時はその都度カンファレンスを開き現状に応じた計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者を担当制にしている。利用者の家族の要望に応じて買物・散歩・外出・布団干しやデイサービスの相談など柔軟な対応で支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者・家族が希望のかかりつけ医を大切に、通院は家族が同伴している。協力医院の往診を頻繁(週1回以上)に受け、スムーズに連携がとれている。緊急時の対応も含め適切な助言と医療を受けられるよう支援をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の状態に応じてできるだけ早い時期から家族・職員・医師と話し合い努力はしているが、事業所の対応には限界があり、重度化や終末期は医療機関へお願いしている。事業所としての方針を関係者で共有できている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉かけや態度に利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応を徹底している。写真・記録など個人情報の取り扱いについて職員間で共有している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが「自立支援」の立場から、職員は利用者の今日できること、今できることを大切にしながら支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食はデイサービスで調理され利用者と職員が盛り付け、後片付けをしている。職員は利用者を見守りながら一緒に食卓を囲み家庭的な雰囲気がかがえた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日午前・午後と利用者の希望に合わせて支援している。入浴を嫌がる利用者には状況に合わせて全身清拭、部分清拭を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の力量に応じて分担を明確にするなど、その人その時を見極めて洗濯たたみ、食事の盛り付け、後片付けなど楽しみながらできる支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日には、買物、散歩、ドライブなど利用者の希望に沿える支援をしている。また、ホームの行事に家族同伴できるよう呼びかけをしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中玄関は鍵をかけず、職員は利用者の状態を把握し見守りを重視したケアに取り組んでいる。帰宅願望の強い利用者がエレベーターで降りても、デイサービスの職員と連携をとっているため、無断で施設外に出ることはないようにしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、年2回の訓練に利用者も参加している。夜間想定および地域住民参加の訓練は計画中である。	○	運営推進会議を通して災害時の協力依頼を地域の自治会などへ働きかけ協力体制が築けることを期待したい。また、職員数の少ない夜間想定訓練を実施し、利用者を災害から守る体制づくりを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設事業所の栄養士が献立作成しカロリーなどの確保をしている。個人記録に摂取量を記載し、状態に応じて支援している。また、月1回食事に関する会議を栄養士・厨房職員・課長などでしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は明るく広くゆったりしている。ホールの瓦屋根や畳コーナ、ソファに落ち着きと家庭的雰囲気が漂っている。また、暖かい日はベランダのベンチに座り周辺の景色や季節の花を眺めるなど、利用者が自由に過ごせるよう工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室出入りに愛用の浴衣で手作りのれんを吊るし、利用者は居室を間違える人はいない。室内は思い出の写真、テーブルや椅子、テレビ、冷蔵庫などを持ち込んだり、趣味の作品を飾るなどその人らしく居心地よく過ごせるよう支援している。		